

地域密着型サービス自己評価票

- 。 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 2007 年 9 月 1 日
事業所名	グル - プホ - ムほほえみ扶桑
ユニット名	2 番地
事業所番号	2 3 7 5 3 0 0 2 8 8
記入者名	職名 管理者 氏名 原田 のぶ子
連絡先電話番号	0587 - 92 - 4483

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>「明るく、楽しく、元気に一人一人がその人らしく暮らす」を理念とし、笑顔あふれる環境作りができるよう取り組んでいる。</p>	<p>自治会・消防署・保健所・警察・山名区長・ボランティアを通じ、自然と地域の中で徐々に受け入れていただけるように努力している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>全体ミーティングや申し送りを通じ、常に管理者と職員間で理念の実践に向け取り組んでいる。 (玄関にも掲示あり)</p>	<p>出勤時、スタッフ全員が利用者一人一人に必ず声かけをするようにし、また一日一回は笑顔で笑っていただけるように心掛けている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>運営推進会議や家族会を開催し、意見交換を行い「明るく、楽しく、元気に一人一人がその人らしく暮らす」ため気持ちのよい挨拶と利用者の笑顔が見られるような環境作りに取り組んでいる。</p>	<p>地域の方やご家族様にホーム内での年間行事のイベントに参加していただけるよう密に連絡を取り、ご協力および参加して頂けるよう努力している。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>花木や菜園を作り、草むしりや水遣り等を通じ、隣近所との挨拶や会話ができている。また、散歩など畑や庭先で利用者の方の問いかけに笑顔で対応していただいている。</p>	<p>近くの保育園児の慰問や隣近所の方々が開いている時間を見つけ、ボランティアで来所している頂けるような環境作りにも取り組んでいる。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地元の会合、神社のお祭り、年間行事等を通じ、隣近所との挨拶や会話ができている。また、散歩など畑や庭先で利用者の方の問いかけに笑顔で対応して頂いている。</p>	<p>地域の催しものへ積極的に参加し、利用者が地元の方たちと一緒に楽しむことができるような場面をもっと増やしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の方や認知症のお年寄りを抱える家族の方が地域の中で不安を抱えて暮らすことのないようメンタルケアや介護の助言を自治会でアピールしている。		近隣の婦人会、小学生・中学生のボランティアを招き、認知症や介護の豆知識を学んで頂くことも勧めていきたい。(認知症であっても、純粋な心をもった一人の人間であることを知っていただく。)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に1度自己評価・接遇チェックを実施している。外部評価に取り組むことでさらなる改善ができると考えられる。		今後も外部評価の意義を理解し、スタッフ一同、力を合わせホームのレベルアップに取り組んでいこうと考えている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ゲストを招き、講演をして頂いている。また、何かひとつでもライフスタイルに役立てることができるよう演題を選択している。自由に発言していただき、意見をサービス向上に役立てている。		ホームの行事、取り組みについても報告し、またホームに対しての意見交換をし、よりよいホーム作りに反映させている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町の盆踊りの練習・夏祭り・神社のお祭りなど自治会の会員となり、会合に出席し、区長・自治会長を通じ情報交換ができています。扶桑町の介護保険担当課に出向き困ったことなど相談にのってもらい質の向上を目指している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学んではいるが、現在必要とする方は入居していない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待・介護拒否などがないよう常にミーティングや申し送りなどに注意を払い、防止に取り組んでいる。		メンタルケアを中心とした常に思いやりのある声かけや相手の気持ちになって言葉を選ぶよう努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約の際は利用者が家族の方に十分な説明を行い、理解して頂いている。</p>		<p>不明な点についてはその都度納得できるよう説明し、疑問点は改善できるよう努力している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者は常に利用者一人一人の訴えに耳を傾け、運営推進会議や家族会を通じ苦情や又、不満の意見など聞き入れ、よりよいホーム作りに反映させている。</p>		<p>常にすべての利用者の方が不安なく安心して暮らすことができるよう声かけ情報収集し改善に努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族会は年4回(6月・9月・12月・3月)行い、また面会時や担当者会議に急変時などその都度個別に情報提供を行っている。</p>		<p>利用者の1日のサービス内容が把握できるような(利用状況報告書)を作成し、毎月月末発行できるよう取組んでいきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様からの不満や苦情については口頭や書面で受け、日々よりよいホーム作りに反映させている。</p>		<p>玄関に意見箱を設置。運営推進会議・家族会・自治会合、その都度意見を述べて頂き、運営に反映できている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティングの中で自由に意見を出し、話し合っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常勤職員およびパート職員の要望に合わせた勤務表作成を行い、必要に応じ勤務調整ができています。</p>		<p>行事や利用者の状況に合わせた勤務配置をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員と利用者が家族という関係に近い空間専門性を持った介護職員であるよう努力している。		職員が離職することで利用者へのダメージが最小限に防ぐためにも日々スタッフが一人の利用者に同じサービスができるよう個別のサービスを提供している。介護報酬が下がる中でも、可能な限り夜勤手当等改善を行い、努力していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	実務研修・管理者研修等、研修会には参加している。犬山本部での勉強会にも出席できる。		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会に出席、同業者との意見交流も行っている。他のグループホーム見学会や研修も行っている。		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	犬山本部にグループホーム扶桑担当の職員を配置し、困ったことが起こったときなどに駆けつけ解決し、ストレスが溜まらないようにしている。グループホーム2階に職員が足を伸ばせる畳室を設置しており、休憩できるようにしてある。		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	月に1回、各部署の取り組みや改善している点を発表できるようにしてあり、グループホーム扶桑が何に取り組み、実績を積んでいるか、向上心を持ち努力しているか把握している。勤務状況は常に把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から初回面談・入居に至るまでに不安要因・求めていること等、細かくアセスメントを行い、入居時には自宅と連続して同様に安心して暮らせるよう、なるべく自宅にあった家具を持ち込んでいただいたり、アルバムを持参していただいている。</p>	<p>初回面談の際にできるだけご本人との言葉のコミュニケーションを図り、入居時には馴染みの顔や場所であるよう取り組んでいる。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談・契約・入居に至るまでの経緯を尊重し、何でも気軽に相談できるよう常に傾聴し、受け入れやすい環境作りをしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメント情報（個人情報）カルテを通じ、医療面・身体面・メンタル面等把握し、必要であれば他のサービス事業との連携を図っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人や家族との話し合い（ADLの向上、メンタルケア等）納得した上で利用していただける体験をしてもらったり、行事参加をしてもらったり工夫している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居時より個別のケアプランを作成し、できることはやっていただき人生の先輩として優れていることを褒め称え、できない部分を職員が援助し、共に支えあう関係を築いている。</p>	<p>毎日の生活の中で、できること・洗濯・掃除・食器の片付け・盛り付け等一緒に行うことで共に生きる喜びを感じている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	急変時・行楽・行事・日々の生活の中で喜怒哀楽を共に共有できる場面を提供している。		サービス担当者会議・面会時・家族会・運営推進会議等による情報交換を行い、お互いに支え合う関係を築いている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には常に状況報告をし、よりよい関係が築けるよう心掛け自室でゆったりと会話できるよう配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるよう写真などを見せていただきながら、歴史を共有できるまでお話を聞きし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人が孤立しないよう共通する部分を把握し、利用者がお世話役になってもらったり教えてもらったり、共に支えあえるような場面をさりげなく作れるよう努めている。		趣味・故郷・家族・仕事など共通する話題を提供し、コミュニケーションのきっかけになれるよう支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状悪化など長期入院を余儀なくされた場合でも常に連絡を取り、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アルバムを見せていただいたりお話を聞かせていただき本人の生活歴を把握し、その人らしい居心地の良いライフスタイルができるよう検討しケアプランとして取り組んでいる。</p>	<p>担当者会議など家人、本人を交えより良いライフスタイルが送れるよう努力している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や利用者に生活歴、嗜好品、生活環境について聴取しケアサービスに反映できるように努めている。入所前から使っていた家具など馴染みのものを持参して入居していただいている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人のADL, IADLを把握し一日の過ごし方を総合的に把握して、できることはご自分でやっていただき、出来ない事だけ援助できるよう取り組んでいる。</p>	<p>残存能力を把握し維持できるよう取り組んでいる。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント情報で利用者のニーズを把握し担当者会議を開催し家族や本人を交えて検討、介護計画を作成している。</p>	<p>利用者本人がその人らしい暮らしができるよう、できない部分をお手伝いできるよう取り組んでいる。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期限内であっても体調の変化、ADLのレベル低下が見られる時にはプランの見直しモニタリングを行い新たな計画を作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入記録の共有プランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体がクリニックの為にリハビリを活用している。訪問医療も活用している。		訪問医療 月4~5 リハビリ W/2回ペース利用
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着型の推進会議を中心としたボランティア、警察、消防、自治会、文化、教育機関等と協力しながら支援している。		今後の取り組みとして、保育園と小学校、中学校、婦人会のボランティアの「ふれあいの場」を作っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具販売 車椅子ベット 補助具（補聴器）RHシューズ購入、メンテナンスを含む支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特別養護老人ホーム入居待ちで私どものホームを短期間利用する方もあるが、地域包括支援センターと協働し特養の申し込みも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>1週間に1回の診療をしていただき、急変時はその都度電話にて指示を仰ぎ、往診にて対応されている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>法人のクリニックに認知症を認定できる医師が勤務されており、常に相談指示を仰いでいる。</p>	<p>関係機関のDrを確保している。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>法人のDrやNsによる往診や24時間体制の連携体制を確保している。</p>	<p>バイタルチェックのほか内服薬の準備確認、24時間Nsと連携を図り、日常の健康管理を支援している。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院・退院の際、速やかな情報提供、情報交換ができています。</p>	<p>法人のクリニック、Dr・Nsとは常に利用者情報を共有し、連携を図っている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族様や本人の意向により終末期のあり方については話し合い、看取りの指針を共有し、署名・捺印をいただいた方もあります。</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医が同一法人内の医師のため、患者さんの苦痛を取り除くこと、ホームでできること、入院が必要な場合など、状態の変化とともに話し合い、検討している。ホームで対応できることは準備もしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特養入居などの時、介護・看護サマリーを作成・提供している。</p>		<p>退去時には現在の援助内容がそのまま、継続できるよう介護サマリーや看護サマリーに記入、本人が不安なく生活できるよう支援している。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等個人情報の記入者名を記入しない方法を取っている。本人の方では排泄に関する言葉は必要以上に大きな声で対応しないよう配慮している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何事にも自己決定ができるような声かけを心掛けている。意思表示ができない方にはその都度言動を見て問いかけをし、決定している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしいライフスタイルを優先し、一人一人のペースに合わせ、希望に添った支援をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度訪問理容サービスを活用している。また、入浴時や朝・夕のモーニングケアにて本人のできない部分を支援し、生活の中にメリハリができるよう取り組んでいる。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付け洗い物等それぞれの力を生かしながら職員と一緒に取り組んでいる。動けない方にも、食事の匂いや食材のきざむ音、料理についての昔話で参加していただき、楽しんでいただいている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は本質的に自由にさせていただいている。糖分・塩分については身体面に配慮、ご家族様にも配慮して下さるよう協力していただいている。おやつ、副食、飲料水等持参するご家族もある。(お酒・タバコは殆どない。)		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレに誘導し、排泄ができるよう支援している。また、訴えることができない方については行動パターンを把握し、小声で声かけ誘導を行っている。排泄チェック表は他の人の目に触れない工夫をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴のため、のんびりゆったり入っていただけるよう週3回を目安に午前中に入浴をしていただいているが、本人の希望で午後からの入浴も可能としている。また、1階の脱衣室からは庭が見える工夫もしており、楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や体調に合わせて午睡していただいている。また、昼夜逆転しないよう1日の生活リズムを大切に睡眠状況を把握し、良眠できるよう支援している。		週1回のリネン交換と洗濯をし天気の良い日は布団を干し、気持ちよく入眠できるよう体を動かすなど個別的な行動に配慮を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の生活リズムの中にメリハリと楽しみを持ち、役割を見極め興味のあることを一緒に取り組み終わったら必ず労いの声かけをしている。人生の先輩としてかつて担ってきた役割を実践していただき、できたことを褒め称え昔のことをお話していただき、1人1人の楽しみや生きがいを見つけ援助している。		散歩・ショッピング・ドライブ・催し物参加 草むしり・水撒き・土いじり・やさい作り・掃除 食事の盛り付け・片付け・洗濯干し・取り込み たたむ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>援助が必要な方は本人預かりの財布を所持し品物を選んでいただき、支払いは対応している。また、自己管理できる方には財布を自己管理し、支払いもご自身で対応されるため見守りを行っている。お金を所持し使う行為をいつまでもできるよう能力に応じ援助するように努めている。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>気候に合わせたタイムスケジュールを作り、お散歩に出かけ、気晴らしができるよう努力している。また、喫茶店やスーパーマーケット等要望に応じ、その都度外出ができるような計画を立て、取り組んでいる。</p>	
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>年に何回か普段は行くことができないところに出かけられるよう行事の中に取り入れ、支援している。片道30分～40分以内の公園等に(花見、桜、あじさい、ふじ)おやつやお弁当を持参で出かけている。</p>	
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人希望時にはその都度電話連絡を行っている。切手購入、ポストへの投函は本人と共に散歩コースで出かけている方もある。</p>	<p>電話については番号をプッシュして手渡している方もある。手紙、はがき、ご自身で書ける事、写真や絵を貼ることをしていただき、書けない部分は援助を行っている。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族・知人・友人が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう自室またはリビングなら隣席を用意し、ゆっくりしていただけるよう工夫している。玄関ホール・南の庭・北の庭にも訪問して下さった方と語り合える様子をさりげなく置いてある。</p>	<p>来所者の方には家庭的な雰囲気配慮し、笑顔でお迎え、ゆっくりできるよう配慮を心がけている。</p>
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「身体拘束の具体的な行為」についてすべての職員が正しく理解できており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内に「身体拘束廃止ビデオ」を所有しており、新入職員にはいつでも研修できるようになっている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の激しい道路に面しているため、交通事故防止と不審者の侵入防止のため、やむなく施錠をしているが、電子ロックになっており、利用者様が閉じ込められている感じがしない工夫がしてある。居室やフロアへの出入り口は自由に出入りできるようにしている。		利用者の不穏時、帰宅願望の強い日を除き必要以上に施錠しないよう取り組んでいる。(ドアにベルを付け、音で対応している)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の状態を把握し、プライバシーに配慮しながら安全の確保に努めている。昼夜を通じ利用者の動きやサインを早期に察知できるよう状況を最も確認しやすい位置で対応している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に配慮し、誤飲しやすい物は目の届かないドアの中に保管する、ご自分の持ち物は整理するなど1人1人の状態に合わせ危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット報告を実施し、再発防止に取り組んでいる。誤薬防止のため名前・日時を本人の前で「さんですね」と優しい声で読み、再確認している。事故発生した場合は一番に本部担当者に報告し、一緒になって対応している。早期対応・再発防止に取り組んでいる。		ヒヤリハット報告を検討することで同様の事故の再発がなくなった。薬の誤飲や異食行為防止が改善できている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルの徹底を行っている。急変時の対応、事故発生時に備え初期対応の訓練を定期的に行っている。すぐそばにある丹羽消防署にも訓練時に協力を頂いている。		資料を作成している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的実施している。また、地域の人々やすぐそばの消防署と仲良くしていただき、災害時に協力を得られるように心がけている。		自治会が避難訓練を実施する機会があれば参加させていただきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	母体法人の医師より検査結果に基づき病気の進行に伴うリスク等情報をいただき、常に様子を医師や家族などに報告・説明し、早めの対応策や心構え話し合っている。心構えができることで利用者・家族・職員が皆抑圧感のない暮らしができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、血圧変動や発熱等の早期発見に努めている。また、顔色や食事量・排便排泄のチェックを行い体調の変化の気づきができるよう取り組んでいる。		体調の変化・異変の発見時は速やかに24時間連携している看護師に報告・指示を仰いでいる。 (医師の往診も含む)
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、処方箋と薬剤情報を個人票にファイルしてある。用法・用量については理解している。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		食前・食後・朝・昼・夕・寝る前の薬など誤飲誤配のないよう常に日付と名前の確認を行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分補給・繊維質を含む食材利用や食事量のチェックを実施。運動不足などに気をつけ、働きかけている。薬は最終的に利用するよう努力している。		(1日の水分摂取量・食事量・運動量・薬の量を減らす工夫) 排便や浣腸をしなくてすむよう排便チェック表を作り、早めの対応に努めている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、口臭予防にイソジンガーグルでの嗽を実施。自立している方には声かけ・見守り、朝夕の歯磨きについては磨き残しのないよう最終チェックの援助をしている。		義歯はポリドントで対応。義歯は磨き残しのないよう再チェックを行う。ご自分でできない方は全介助でガーゼを利用している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分摂取量が一目で分かるようチェック表を作成、栄養状態を把握できるようにしている。食欲のない方にはエンシュアリキッドで対応したり、食事の形態など工夫しながら完食できるよう援助している。		利用者の状態にあわせ、主食は粥やミキサー、副食については刻み・一口大・ミキサーと工夫して援助している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルが作成しており、常に予防に力を入れている。職員は食事の前、トイレ介助後の手洗いうがいと消毒も習慣となっている。面会者の方にも消毒をしていただくよう携帯スプレーを玄関に設置して協力していただいている。		予防用マスク(風邪予防) ペーパータオル(トイレ・洗面所)(感染予防) イソジンガーグル(嗽用)
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材を使用するよう努めている。日付を確認し、早めに使い切るよう努めている。		調理前の手洗いや食材の日付確認・食器乾燥機を使用した食器の消毒もすべて実施している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみがもてるよう「おかえりなさい」の表札のもと、花・木・水辺と生き物があり、工夫してあります。メルヘンタッチの小人さんと犬の置物が出迎えてくれる。春にはツバメが巣作りをしてくれ、皆で毎日見守ることができた。ドアには電子キーにて施錠ができるよう工夫しております。		玄関以外はドアベルを使用、自由に中庭やテラスに出られるようになっている。(ベルの音で利用者の出入りの確認をすることができるため安心して見守ることができる)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の利用者様も利用できるよう広い空間を作り、不快な音や光が入らないよう配慮している。四季の花や手作りの壁掛けなど飾り、ホッとする空間を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間、気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるよう工夫、ソファや畳の間では洗濯物をたたんだり、お昼寝もできるようになっている。皆とも一緒に居たりでき、1人になりたいときはあちこちに椅子が置いてあるのでポーンと一人で景色を眺めておられるように工夫してある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人の使い慣れた日用品、家具、食器家具等を入 居時に用意していただき、安心できる空間作り に努めている。特にアルバム等は持ってきてい た。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	季節に合わせ、室内の換気、空調の温度調節、外 気温と大きな差がないよう配慮している。また、 利用者の状況に合わせ、まめにひざ掛けや衣類で 工夫し、対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	車椅子やシルバーカー対応でも安心して暮らせる ゆったり広いスペース、廊下、トイレ、浴室には 手すりが設置され自立できるよう配慮されてい る。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	自室のネームは写真つきで対応。トイレは分かり やすいようイラスト入りで作成し、表示してい る。個人情報保護法を尊重しつつ、本人の持ち物 には名前等をつけ、混乱や失敗なく自立して暮 らせるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	パラソル・テーブル・椅子を設置し、ティータイ ムやイベント時に活用、庭には多種の木や花が植 えてあり四季折々に楽しむことができる。小さな 菜園を作り、野菜の収穫も楽しんでいる。南テラ スには洗濯物を一緒に干したり、のんびり夕涼み ができるスペースもある。東側の水辺には生き物 を飼って世話をする喜びを感じてもらえる工夫を		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様一人一人が「明るく楽しく元気に、その人がその人らしく暮らす家」を理念としており、1日1回は笑顔になれるようにどんな時にも笑顔で傾聴する気持ちを大切にゆっくりでもできることは見守り、できないところだけを援助する生活リハビリを目標としております。「手はかけ過ぎず、目は離さず、気軽に待つ心」に取り組んでいます。